

【相談】



客先から、どぶ漬けメッキ処理用のタップを使用するよう指示されました。  
どぶ漬けメッキ処理用のタップとは何ですか？  
また、どぶ漬けメッキ処理とはなんですか？

【回答】

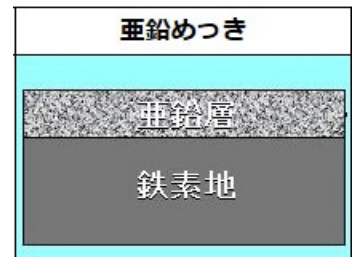
**どぶ漬けメッキとは、現場的に言っている 俗語です。**  
**下の説明にあるように、相当厚いメッキ加工のことを言います。**  
**このメッキ前めねじ加工用の、オーバサイズタップ (+0.3~+0.6mm程度)**  
**のことを 通称:どぶ漬けメッキ用タップと呼んでいます。**



【解説】

【どぶ漬けメッキとは】 正式には、溶融亜鉛メッキと言います。

高温で溶かした亜鉛に鋼材を浸し、表面に亜鉛皮膜を形成する技術です。  
亜鉛メッキ加工を施した鋼材は、錆びや腐食を発生しにくいのです。



【亜鉛メッキが使われている所】

温室、室内プール、道路、橋梁、土木、架線金物などに  
施され身近なものでは、送電線の鉄塔などもあります。



**ナット等のめねじ加工に どぶ漬けメッキする時は、どんなタップを選べばいい**

はじめに、施すメッキの膜厚を確認する必要があります。  
めねじ部にメッキが施されると、ねじ径が小さくなります  
ので、その分を見込んで、ねじ径を大きくしておく必要が  
あります。  
JIS規格には、右表のようなメッキ厚規格があります。  
そのため、寸法にもよりますが、どぶ漬け用のタップは、  
通常、2級+0.3 または、2級+0.6mm のオーバ  
サイズタップが、利用されることが多いようです。

メッキ厚を考慮しためねじ有効径寸法 (JISB 0209-5・1048より)  
単位:mm

ねじの呼び径	ピッチ	めねじ有効径
M10	1.5	+0.510~+0.310
M12	1.75	+0.565~+0.335
M14 M16	2	+0.632~+0.350
M18 M20 M22	2.5	+0.754~+0.350
M24	3	+0.950~+0.360

【アドバイス】



溶融亜鉛メッキ(どぶ漬けメッキ)の場合、メッキの厚さにバラツキがある為、最適な  
オーバサイズタップを選定するのは、簡単ではありません。実際に加工を行いながら  
タップを選ぶこととなりますが、当社では SP II (2級)+0.3のオーバサイズタップを  
M10~M30まで 特定流通品としてラインナップしておりますので、このタップから試用  
してみてください。  
また、メッキ前のめねじ検査用のねじプラグゲージの製作対応も可能です。